

令和4年度第4回 山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会議事録（要旨）

日時

令和4年11月21日（月） 午後2時00分～午後2時50分

場所

山県市役所3階 大会議室

出席者

委員	早川 三根夫	学識経験者
	山崎 通	市議会議員
	山口 一美	市自治会連合会が推薦する者
	神原 義典	市PTA連合会が推薦する者
	上野 泰英	市PTA連合会が推薦する者
	岩田 陽歩	市立保育園長会が推薦する者
	佐藤 千秋	市立保育園長会が推薦する者
	奥田 真也	市立保育園長会が推薦する者
	高橋 広美	市立小中学校長会が推薦する者
	石樽 千恵	市立小中学校長会が推薦する者
	伊藤 泰介	市立小中学校長会が推薦する者
事務局	教育長	服部 和也
	学校教育課長	森川 勝介
	学校教育課課長補佐	渡瀬 和則

欠席者

委員	高屋 重義	市自治会連合会が推薦する者
	梅田 修一	市自治会連合会が推薦する者
	松井 元成	市PTA連合会が推薦する者

日程

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 前回議事録の確認
- 4 議事
 - (1) これまでの検討内容の整理について
 - (2) 答申（案）について
- 5 閉会

会議の概要

別添のとおり

1 開会

午後2時00分開会

2 委員長挨拶

今まで、皆さんの活発な意見を集約して作り上げてきた。まだまだ至らないところもあるかもしれないが、今日はいよいよ、答申までもっていききたい。きちんと論議することで、市民の皆さんの期待にこたえていきたい。

3 前回議事録の確認

事務局が説明。(略)

4 議事

(1) これまでの検討内容の整理について

○委員長 前回の会議では特に意見はなかったが、文言を若干修正された案が提出されているので、事務局から説明願う。

○事務局 説明(略)

○委員長 これについて質問や意見があればうかがいたい。

○委員長 (ないようなので)現時点では、「これまでの検討内容の整理」については、お認めいただいたとする。これから答申を見て、今のところに修正の必要があればうかがう。

(2) 答申(案)について

○委員長 答申案については、前回の会議でいくつか意見が出され、その意見を踏まえて修正案が提出されている。まず、事務局に朗読願う。

○事務局 朗読(略)

○委員長 お一人ずつ、感想、意見、質問、修正点など、意見をうかがいたい。

○委員 進めようとしていることがよく理解できた。特に、「地域の教育力を最大限に活用する。」というところについては、今後も学校運営協議会の力を借りながら進めていきたい。

○委員 教育ビジョンの実現を目指して小規模校でいろいろなことに取り組んできたが、その実践を価値付けていただけた。3ページの「教職員が自校の児童生徒のみでなく、市内全児童生徒の育成に関わること。」については、先週、複数の学校が参加した体験学習で、先生方が他校の児童に対しても、きめ細かな指導、支援をしていたと聞いて感謝している。自分の学校のことだけではないというところが答申案からとても伝わってきて、今まさに山県市が取り組んでいることだと感じられた。

○委員 「地域の中の学校」「地域の教育力を活用」という言葉が、とても心に残る。地域の皆さんの力で児童が力を付けていると改めて感じる。これらの言葉を大事にして答申案が作られており、賛同する。

○委員 3ページ目の「多様な学びが選択できる学習環境を整える」ということはとて

も大事で、いい文言を入れていただけたと思う。2ページの具体的な方策の①「県費負担教職員の現在数程度を確保」の部分は、程度ではなく増やすくらい確保することをお願いする。3ページの(2)の二つ目の丸のところ、「保幼小中」と書かれているが、先ほど事務局は「幼保小中」と言われた。どちらが正しいのか。

○委員長 事務局、後でまとめてでもいいので回答願う。

○教育長 後でまとめて答える。

○委員 地域との交流、合同授業、オンライン授業を積極的に取り組んでほしい。合同授業は、山縣市ならではの取組だと思うので、これからも続けてほしい。小中一貫校の詳しい資料があれば読んでみたい。

○委員 これまで、次世代の義務教育について議論を重ねてきたが、少しずつ進む方向がまとまってきたと思う。「地域の教育力の活用」「一人一人の状況に応じた多様な学び」という点で、未来の教育に向かって進んでいけたらいい。

○委員 大人に合わせたのではなく、子どもに合わせた答申にさせていただいた。これで終わりではなくこれからの議論もまだまだ大切だと思うので、今後も我々大人ではなく子どもを主体として進めてほしい。

○委員 おおむねいいと思う。具体的方策がしっかり明記されているので、今後のイメージがしやすい。ただ、具体的な統廃合について書かれていないので、卒業生として、地域の者としてはありがたい一方で、児童生徒数の推移を考えると、果たしてこの具体的方策が成り立っていくのかどうか。今回のこの答申は先送りしている感じもする。委員の一員として葛藤が若干あるが、この下に3行追加されているので、これでいいと思う。

○委員 学校統合は、光熱水費等を削減でき、予算を運営に回せるのでいいと思う。会社でも、同じ事業内容の会社であれば、統合すれば経費を削減したほうが、その経費をほかに回せる。

○委員 おおむねけっこうだ。字句についての意見がたくさんある。紙を渡すので参考に見てほしい。

○委員長 「程度」という文言を削除したらどうか、小中一貫校について詳しい中身があるのかどうか、「幼保」なの「保幼」なのかどちらなのか、との質問について、事務局、回答願う。

○教育長 1点目、「現在数程度」の「程度」については、教員の数は学級数に対して決まる。統合すれば学級数が減るので、教員数も減る。「程度」を削除できればいいが、今年度よりも来年度は学級が減るので、「程度」と入れさせていただく。

2点目、小中一貫校については、ここには詳しい説明はないが、答申をいただいた後、教育委員会として推進計画を策定するので、そこで具体的な小中一貫校の形を描くことになる。

3点目、「保幼小中」は、一般的には「幼保小中」というので、修正することは問題ない。

○委員 国は「幼保」としているの、合わせたほうがいいと思う。

○教育長 「幼保」とする。

○委員長 「統廃合の結論を先送りしたのではないか」という質問が市民の皆さんから出るかもしれない。そのことについてどう考えているか。

○教育長 今まではどちらかという行政側の利点を中心に統廃合は進められてきたが、今回の答申案は、子どもにとってどうあるべきかという立ち位置にあるのが大きな特徴だと思う。更に、「少人数できめ細かな教育」を生かすためには、教員の数は減らしたくない。統合すると明らかに教員の数は半分近くに減るので、今ぐらいの教員を確保しながらきめ細かな指導をすることに意味がある。「先送り」ということについては、7、8年後には明らかに子どもが減るので、その段階では、地域の皆さんを含めた統廃合の議論が避けて通れないと思う。

○委員長 私の理解を話す。個別指導と集団指導の両方のいいところ取りをするには、校長は、自分の学校だけでなく隣の学校との連携についてのカリキュラムマネジメントが必要になるので、とても大変になる。そのためには、教育長のリーダーシップが不可欠で、市内の全部の子どもに全部の先生が同じように関わり、それを地域にバックアップしてもらおうという体制の中で、山県の子どもを育てていこうという壮大な計画である。これは、山県市の規模だからこそできる。

そのためには、学校の設置の工夫と教育課程の工夫が必要で、統廃合すると教員を確保できない。教員を確保しつつ、子どもたちの学びも集団と個別の両方をうまくミックスさせる工夫をする、そういう発想で子どもたちを育てていこうということである。もう少し具体的に言うと、例えば、今週の月曜日と水曜日は、この小学校でこの授業をする、その学びをもって、ほかの曜日は他の小学校へ行ってお互いに議論するような教育課程が組まれると思う。それをやるうちに、もっと探求的な時間を増やすべき、逆にもっと個別学習を増やしたほうが力が付く、といった、先生たちが子ども一人一人を推しはかる作業、カリキュラムを作る作業が出てくる。

そのためには、子ども一人一人を把握する必要がある。この子はどこでどういう学びをしているのか、算数がどこまで進捗しているのか、体育は何が得意なのか、といったことをタブレットで把握し、担任の先生や他の先生も子どものつまづいている部分を分かるようにして、皆さんで手助けしていこうという発想で、まさに「ONE山県構想」と書いてあるが、そういう教育課程を組んでいこうということだ。やはり、次世代型教育とはこうである。

最初は、統合か存続かということで論議が始まったが、子どもを軸に、子どもにとっての必然がどこにあるか考えたときに、こうした論議が出てきた。今まで

は、ある意味、一人の子どもに対して担任の影響力が大きすぎた。大きすぎると、いいこともあるけど苦しいこともあるわけで、これからは、一人の子どもに対して、学校の枠を超えて先生方に考えてもらい、多くの先生や地域の人が目をかけ、言葉をかけることによって、子どもたちの多様な考えを培っていこうということが根底にあり、いい答申ができたと思っている。

○委員長 「切り拓く」の漢字を「切り開く」とした理由は。

○事務局 公用語では、「拓」を使わないので「開」にした。「拓」を使うのであれば、ルビを振る必要がある。

○委員長 ひらがなでもいいと思うが、任せる。審議結果（１）○の二つ目の「小規模校」は小学校のことを指していると思うので、「小規模小学校」としてはどうか。

○委員 １ページの上から１１行目「理想の教育」は、「山県市にしかない特性を生かした理想の教育」としてはどうか。下から５行目、ただの「機会」でなく「交流の機会」としてはどうか。２ページの１０行目、スクールバスとタブレット端末あたりの言葉の流れがよくない。下から５行目、「したりできる」という部分がよくない。３ページの上から２行目、「具体的取組」は「具体的取り組み」ではないか。７行目、「構築することは喫緊の課題」は「構築することが喫緊の課題」ではないか。８行目、「保幼」は「幼保」ではないか。１３行目、（仮称）は後ろに付けるのが一般的でないか。下から３行目、「継続支援を行う」は「継続支援を行うなどが必要である」ではないか。以上、参考として事務局で考えてほしい。

○委員長 今の指摘にはおおむね同意する。

○委員長 ほかの意見はないか。これで、皆さんの意見が集約できたのではないか。それでは、今の文言等の修正は委員長、副委員長に任せてもらい、本委員会として、この案のとおり答申することで異議がないということによろしいか。

○委員 私たちの意見も大事だろうが、当事者の意見が一番大事なので、保護者の意見をもっと取り上げてほしい。

○教育長 この後、教育委員会からこの先の推進計画を出して、地域の方の意見をいただきながら進める。

○委員 了解した。

○委員長 各小規模校が一律で曜日ごとに決まるわけではなく、いわ桜小のお子さんや保護者の皆さんが美山小で勉強する時間を増やしてほしいということであれば、加率的に動く可能性はあり、柔軟に教育課程を編成しようとするのが特色である。大事な指摘である。ここでの論議は、市民の多くの方の論議になってくる。こう考える方もいるということなので、ぜひ、対応願う。

○委員長 それでは、委員長、副委員長で文言等の修正をした上で、提出するということがよろしいか。

○委員 <異議なし>

○委員長 了解した。熱心な議論に感謝する。

○教育長 熱心な議論を通して、これまでとは理念を異にした答申ができたということに対して大変うれしく思う。教育長として、絶対先送りしてはならない内容について、一つの方向性をいただけたと思う。この答申をもとに、教育委員会として、次の方向をきちんと描いて、地域の皆さんにご理解をいただきながら、着々と前進させていきたい。2年にわたって、6回の議論ということで、大変皆さんには感謝している。今後ともご指導願う。

5 閉会

午後2時50分閉会